

国内における COVID-19 は、2022 年 11 月初旬現在、オミクロン株 BA.5 に置き変わったいわゆる第 7 波が大きく減少し、人々の生活の制限が緩和されている一方、感染者数が再び少し増加をみせており、この先の動向に注意をしているところです。この 2 シーズンほとんど流行の発生しなかったインフルエンザの再登場も警戒され、RSV、手足口病、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎なども復活しており、感染症のバランスが少し戻ってきているのではないかなと思わせるような状況です。ということは COVID-19 だけに注視するのではなく、ことに小児科領域では小児の発熱、咳、下痢などについて、感染症として幅広く診ていく段階になっているのではないかと思います。なお海外では、COVID-19 流行の影響による予防接種率の低下から、麻疹やジフテリアの発生報告も出てきています。わが国においても日常的な小児医療の重要性が強調されるところです。

さて本号は「外来で診る発達障害」をテーマとした増大号です。発達障害の定義・分類や基本的知識、外来診療を視点においた患児のフォロー、発達障害を疑う「よくある相談」への対応など、20 項目にわたりそれぞれの分野の先生方に執筆していただきました。すべてを「普通」に押し込めようとするので

はなく、それぞれの個性を大切にしながら、病的あるいは社会的適応の困難なケースに適切な対応をすることなど、非常に難しいもののまさに小児医療に必要な事柄が込められた特集となっています。ぜひご一読いただければと思います。特集の中で、神尾陽子先生の「発達障害は生涯を通して特性が続くもので、症状の消失を目標に「治す」ものではなく、特性をもちながら機能を高め、生活の質を高められるように「ケア」することが重要である。発達障害児のこれからの生涯において、1 つの医療機関や一人の専門家だけで支援をすべて担うことはできない。医療機関は診断時には必要不可欠だが、その後は必要な場合に支援チームに加わるという認識でよいと思う。」という言葉が私の心に残りました。

目で見える小児科では「孤発性動脈管の新生児例」、症例として「猫咬傷による Pasteurella 感染新生児例」「保存臍帯の PCR により診断された先天性 CMV 感染症例」など貴重な報告も掲載されています。日本医科大学小児科学教室からは消化器関連の最新海外論文の紹介をいただきました。

晩秋の中、どうぞ本誌 11 月号にも目をお通しください。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC 順）

小児科

第 63 巻 第 11 号 11 月増大号
2022 年 11 月 1 日発行（毎月 1 回 1 日発行）
定価 4,950 円（本体 4,500 円＋税 10%）

年間購読料金
定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）
〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村 直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14
Tel 03(3811)7165 [雑誌部直通]
Tel 03(3811)7184 [営業部直通]
Fax 03(3813)0288
www.kanehara-shuppan.co.jp
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。